

---

# 音楽表現・身体表現・造形表現を融合した 「音楽影絵シアター」の3様式

保育者養成校の授業開発の記録

岡崎 裕美

Three Styles of Music Shadow Play Theater with a Fusion of Music  
Representation, Physical Expression, and Modeling Expression

The Childcare Provider Training Development Record

Hiromi OKAZAKI

キーワード：影絵・シアター文化財・児童文化・グループ研究

---

## 1 はじめに

児童文化の世界には、絵本、童話、昔話、民話、言葉遊び、わらべ唄や遊び歌、言葉遊び、人形劇、おもちゃ、紙芝居、そして、パネルシアター、手袋シアター、エプロンシアターなどのシアタースタイルの児童文化財があり、保育の現場では日常的に行われる活動である。子どもたちはこれらを体験することで喜びや発見があり、子ども自身が楽しいと感じることの全てが未知の世界のイメージを豊かに広げていく。

児童文化の一つである影絵は、紙などの素材で作られた人形やペープサート、人のシルエットや手指の形や動きによって表現された動物などに光を当てて影をスクリーンに映し出すことで演じられる芸術分野である。保育現場での子どもの影遊びから世界中のプロフェッショナルの影絵の劇団までその活用の幅はとても広い。影絵の技法の原点は「光と影」という、とてもシンプルなものであり、そのシンプルであることの特性は見る人の想像力を高め、作品の製作においても多くのバリエーションを生み出すことができる。

筆者は、保育者養成課程の音楽表現と児童文化の授業を担当し、手遊び、歌遊び、表現遊び、ふれあい遊び、ジャンケン遊び、オペレッタ、歌唱、等の音楽表現、ボディーパーカッション、リズムダンスなどの身体表現、パネルシアター等の造形表現、保育者のための音楽の基礎を指導してきた。

本稿では、それらの要素を融合させた影絵作品を「音楽影絵シアター」と名付け、本学の2年次の授業の中で3年間にわたり、スタイルの異なる影絵作品を考案し、学生と共に製作に取り組んできた。

本稿は「音楽影絵シアター」の3年間にわたる授業実践3様式の記録である。

## 2 目的

保育者養成校の表現分野の学びにおいては、学生の発想力や想像力を刺激し、一人一人の豊かな感性を磨き、広い視野での経験を積むことはとても重要であると考えます。また、オペレッタや音楽影絵シアターは、一人ではできない活動であり、製作や演習に加え、責任感、協調性が求められる。自分の枠を超えた新しい発想や知識を発見できた時の喜びや、緊張感の中での成果発表時の達成感や充実感は、確

実に自信に繋がるとともに、授業での様々な経験が将来の保育の現場で活かすことができる。

このような作品作りの経験は、音楽表現、身体表現・造形表現の3つの観点から学ぶことは多い。目の前にいる子どもたちとの関わりの中で、楽しさを共有しながら指導するための技法、製作や演習の手順の体験をすることを目的とした。

### 3 作品

#### 3-1 様式1～四季折々の歌で綴る『美しい日本の四季』～（平成30年度作品）

##### （1）作品構成

この作品は、日本の四季折々の歌を影絵で綴る作品である。1クラス（30名）で1つの作品を完成させる。

各クラスの学生を、①オープニング～②春～③梅雨～④夏～⑤秋～⑥冬～⑦そして春～⑧エンディングという8つのシーンに担当分けをし、まず、それぞれのチーム毎に全員で絵人形などのペープサートや背景を製作しながら、製作と並行して、ピアノ伴奏と歌唱、曲間のナレーションについては個別に指導した。

また、途中で影絵シアターのスクリーン脇から飛び出してきて身体表現のパフォーマンスをする要素を取り入れて立体的な構成を試みた。

作品の楽曲については、本来は学生達に選曲してもらいたいところであったが、製作から成果発表までの授業のコマ数に限りがあるため、筆者があらかじめ選曲し構成しておくことにした。

##### （2）影絵シアターの製作

影絵を投影するスクリーン、つまり影絵のシアターは、当初、ダンボールで枠組みを作り、そこに障子紙やトレーシングペーパーを貼ることを想定していたが、本学の事務局長に筆者の理想のシアター構想を相談したところ、数ヶ月後にホワイトボードをリフォームした本学オリジナルの影絵シアター（90cm×180cm）が完成した。

また、投影の光源については試行錯誤の結果、プロジェクターの光を当てることで調整することが可能だと判断できた。

##### （3）楽曲の選曲

楽曲は、スタンダードな童謡・唱歌・子どもの歌でまとめ、子どもたちも一緒に歌えるような歌を選曲した。オープニングからエンディングまでを通して約12分の作品であり、曲は各月1曲とし、オープニング曲～4月「ちゅーりっぷ」～5月「こいのぼり」～6月「あめふりくまのこ」～7月「たなばたさま」～8月「うみ」～9月「村祭り」～10月「小さい秋みつけた」～11月「もみじ」～12月「北風小僧の寒太郎」～（間奏「ジングルベル」・「お正月」）～1月「たきび」～2月「ゆき」～3月「春が来た」～エンディング曲である。

中でも1月～2月の季節の三寒四温を表現する音楽的な工夫として、1月の「ゆき」を全員で1コーラス歌った後、2月の「春が来た」の歌を半数ずつで重ねて歌い、2月に全員で「春が来た」を歌うことで移り行く季節感を表現した。

##### （4）表現方法

基本的にはペープサートを製作して投影するが、途中で手影絵や身体表現によるパフォーマンスを組み込み、影絵のシンプルさを生かしつつも学生の若さ溢れる立体的な演出にすることで、「光と影」、「静と動」の要素を存分に展開する。絵人形（ペープサート）に色を付けたい場合は、その部分をくり抜き、色セロファンを裏面から貼ることにした。背景に雪や桜の花びらを降らせる表現は、透明シートに雪や桜の花びらを油性マーカー（水性マーカーは光を通さないため）で描き、ロール状にした透明シートを上

から下に降ろしていく技法を使った。

ダンスやバレエを得意とする学生が存在するクラスでは、学生自身がオリジナルの振り付けを考えて身体表現のパフォーマンスを担当した。

また、一つの作品を通してスクリーン裏で常に全員が作業するわけではないので、シアター裏の影絵スタッフと製作物をシーンの担当毎に大きく入れ替える必要がある。

前半の途中（6月と7月の間）では、シアター前で大きな金色の折り紙でお星さまを折ってハサミを入れて完成させるパフォーマンスを挟み、その間にシアター裏のメンバーチェンジをすることにした。前半と後半のスタッフの入れ替え（9月と10月の間）では、スクリーン裏で人が盆踊りを踊るパフォーマンスをした。後半の途中（12月と1月の間）では、スクリーン裏で人が羽子板で羽根つきをするシルエットを演出した。（羽には棒を付けて人が動かした）

#### （5） 演出（あるクラスの例）

《音楽影絵シアター ～四季折々の歌で綴る『美しい日本の四季』～》

- ・影絵スタッフ（18名） ・コーラス隊（5名） ・パフォーマンス（2名）
- ・照明（2名） ・ナレーター（1名） ・ピアニスト（2名）

オープニング

4月 ちゅうりっぷ

5月 こいのぼり

6月 あめふりくまのこ

（間奏）キラキラ星

7月 七夕さま

8月 うみ

9月 村祭り 盆踊り・太鼓・笛

……………（この間にメンバーチェンジ）……………

10月 小さい秋みつけた

11月 もみじ

12月 北風小僧の寒太郎 寒太郎さんのパフォーマンス（シアター前）

（間奏）ジングルベル～お正月

1月 たきび

2月 ゆき

↓

（ゆき & 春が来た）

↓

3月 春が来た

エンディング

カーテンコール 全員がスクリーンの前に集合

#### （6） あるクラスの演出脚本（台本）の記録

各クラスの音楽影絵シアターの成果発表を終え、春・春～夏・夏～秋・冬～春のシーン毎に、演出の脚本を作成した。

脚本は横使いの縦書きの3段とし、上段には「曲目・ナレーション」、中段には「シアター」の状態、下段には「歌詞」を書き込むことにした。特にペープサートのイラストは、実際には置き換えることが不

可能な場合が多いため、記憶に刻まれるようにできる限り描き残しておくことが大切である。

こうした脚本（台本）の作成を習慣化することは、保育現場の発表会などの行事を自分自身の記録として残しておくという作業の経験に繋がる。（学生が作成した脚本：資料①）

### （7） 学生の感想からの考察

学生の感想には、「最初に自分の手をスクリーンに映してみても面白かった」「12分間の作品を止まらないで通すことが緊張した」「色が上手く出せなかったり、絵人形の大きさによって光源とシアターの距離感が難しかった」「みんなで協力して作り上げる達成感があった」「影絵として映す時の絵人形のサイズをどのくらいの大きさにするかが難しかった」「クラスみんなで協力して頑張った甲斐があり楽しかった」「ペープサートがどのように映るのかを想像しながら製作するのが楽しかった」「知らない歌も覚えることができてよかった」「保育の現場で役立つと思った」「人の手影絵は温かみが出るといった」「クラスでの思い出になった」「シアター裏で自分がやっている時はわからなかったが、成果発表のビデオで自分たちの作品を正面から見てとても感動した」などの記述があった。

初回の授業で、学生達に自分の影や手影絵を自由にスクリーンに映す体験をするよう促した際、子どものようにしゃぎながら手や身体の影絵を映して楽しんでいる学生達の様子を見て、影絵は子どもの保育教材として活用できるだけでなく、創造性や芸術性の高さやクオリティーは多様であっても、その楽しみ方や表現は無限の可能性があると考えられる。

## 3-2 様式2 ～世界の名作より『赤ずきん』・日本昔ばなしより『かさじぞう』～（令和元年度作品）

### （1） 作品構成

この年度の2年生は各クラスの人数が例年より多かったことから、各クラスで2作品を製作することに挑戦した。1作品は世界の名作から『赤ずきん』、2作品目は日本昔ばなしから『かさじぞう』を取り上げた。製作スタッフは、クラスの半数ずつと想定していたが、クラスによっては過半数が『赤ずきん』を希望し、製作スタッフ数に偏りができてしまった。

しかし、お互いにタイプの違う作品に出会えることにも意味があることをしっかりと伝え、半数ずつのスタッフになるよう調整してもらった。脚本は、学生達の課題としたいところであったが、前年度同様、製作から成果発表までの授業のコマ数に限りがあるため、筆者があらかじめ構成しておくことにした。

### （2） 影絵シアター

影絵シアターについては、前年度同様、本学オリジナルの影絵シアター（90cm×180cm）を使用した。光源も前年度と同様にプロジェクターの光を当てることで調整することが可能だと判断できた。

### （3） 楽曲の選曲

音楽についても学生達の課題としたいところであったが、前年度同様、製作から成果発表までの授業のコマ数に限りがあるため、筆者があらかじめ選曲しておくことにした。楽曲はクラシックや既成の曲をピアノ伴奏にアレンジして使用することにした。

作品の所要時間は、オープニングからエンディングまでを通して1作品10分を目標とした。

#### ①『赤ずきん』の音楽

セルゲイ・プロコフィエフ作曲の交響的物語『ピーターと狼』（子どものための音楽作品）を取り入れた。オープニング曲は、「ピーターと牧場の朝」を使用し、このフレーズにナレーションをかぶせることにした。このテーマ曲はわくわくする物語の始まりのイメージに合致した。猟師が登場する場面には同曲の「猟師のおじさん」がぴったりはまった。

また、赤ずきんちゃんのテーマ曲はディズニーの短編アニメ映画『三匹の子ぶた』の挿入歌である

「狼なんか怖くない」を使用した。その他の曲は、劇あそび等のCDから抜粋してピアノ譜に起こし、学生に指導した。

## ②『かさじぞう』の音楽

劇あそび等のCDから抜粋してピアノ譜に起こし、学生に指導した。

## (4) 表現方法

どちらの作品も基本的にはペープサートを製作して投影する。赤ずきんちゃんとおかあさんのシーンは、学生たちの姿をそのままスクリーンに映し込んで台詞のやり取りをするなどして、リアル感と温かみを演出するよう指導した。ペープサートや背景に関しては、絵本が多数出版されているので、絵本のカットやインターネットのイラストを参考にしながら取り組んだ。

## (5) 演出（あるチームの例）

### ①『赤ずきん』

- ・影絵スタッフ（14名） ・コーラス隊（全員） ・照明・背景（2名）
- ・登場人物のセリフ・ナレーション（3名） ・ピアニスト（2名）

### ②『かさじぞう』

- ・影絵スタッフ（14名） ・照明・背景（2名）
- ・登場人物のセリフ・ナレーション（3名） ・ピアニスト（2名）

## (6) 脚本

音楽を挿入する部分と音楽の無い部分を作り、物語の展開に奥行きをつける脚本にした。

台詞やナレーション・ピアノ伴奏・影絵の作業などは個別に指導し、この脚本にそってオープニングからエンディングまで、成果発表に向けて何度も通し練習を重ねた。

## (7) 授業中の学生の様子から見る考察

日本昔ばなしと世界の名作というテイストの違う2作品の対比が、それぞれの作品へのモチベーションを上げていった。作品の担当を決める段階では可愛い「赤ずきん」のお話を希望する学生が圧倒的に多かったが、昔ばなしの音楽から醸し出された「かさじぞう」の世界観は、次第に作品を温かく包み込んでいった。お話のナレーター役は、筆者のアドバイスを真摯に受け止めた後、自分たちで何度も練習し、それぞれの登場人物になりきって演じていく過程での顕著な進化が見られた。

「赤ずきん」では、ペープサートと人の影絵をミックスさせ、登場人物に見えるためにどのような準備（髪型・洋服、動き、等）をするべきか、また、立体である人間の影は角度によって見え方が違うため、自分がどの角度で立ち、どの方向に視線を飛ばすか等の工夫も必要とされるため、最終段階の練習では細かい箇所にも検討を重ねた。

ピアノ伴奏については、2人一組でタイミングよく入れ替わりながら担当することにした。作品が始まってから終わるまで、物語の進行を妨げず進めていくことの緊張感が求められる。この点でも生演奏の学びになったと思う。音楽とペープサートとナレーション、それぞれが楽しくワンチームとなって作り上げる過程は、相手を信頼し、お互いの力を高めながら引き出していった。

このような経験は将来の保育士としてあらゆる角度から物事を考える力を育てることに繋がると考える。

## 3-3 様式3 ～3つのシアターを空間移動する影絵『はたらくくるま』他7作品～（令和2年度作品）

### (1) 作品構成

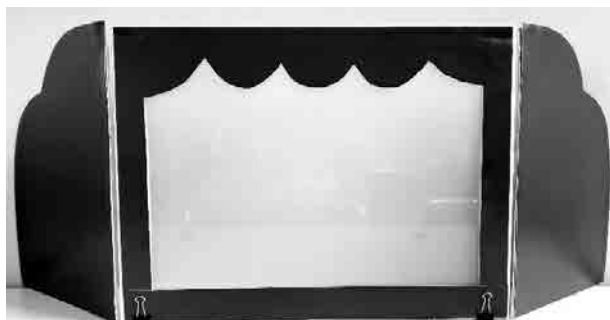
今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策上、影絵シアターのスクリーンの裏側での作業が密にならないこと、歌唱を伴わないことを条件とし、新たに「保育現場で活用できる影絵の学習」をテーマとした。



筆者は、それらの条件を満たすために、3つのスクリーンを空間移動する方式を考案した。この方式によりスクリーン裏の演じ手である学生達を3か所に分散させることが可能となる。

前々年度から使用している本学オリジナルの影絵シアター（90cm×180cm）に加え、あとの2つのシアターについては保育現場でも使える影絵シアターとして、筆者が段ボールでミニ影絵シアターを試作した。その「段ボールシアター」の製作が完成し、絵人形で試作をしている段階であることが閃いた。それは、保育現場には存在するであろう「紙芝居シアター」である。紙芝居の本体そのものを挿入しない状態の紙芝居シアターを「影絵シアター」として代用することができるのではないかと。

検証の結果、紙芝居シアターが第2の保育教材となることが判明した。また、段ボールシアターの製作と演習は、学生の手作り作品として、エプロンシアター同様に手軽な保育実習の場の教材としても役立つ学習となる。



発想の源となった段ボールシアター（筆者作成）



紙芝居シアターの紙芝居本体を挿入する部分にトレーシングペーパーを貼ると「ミニ影絵シアター」（第2の保育教材に変身）になる。

## （2） 影絵シアターの配置

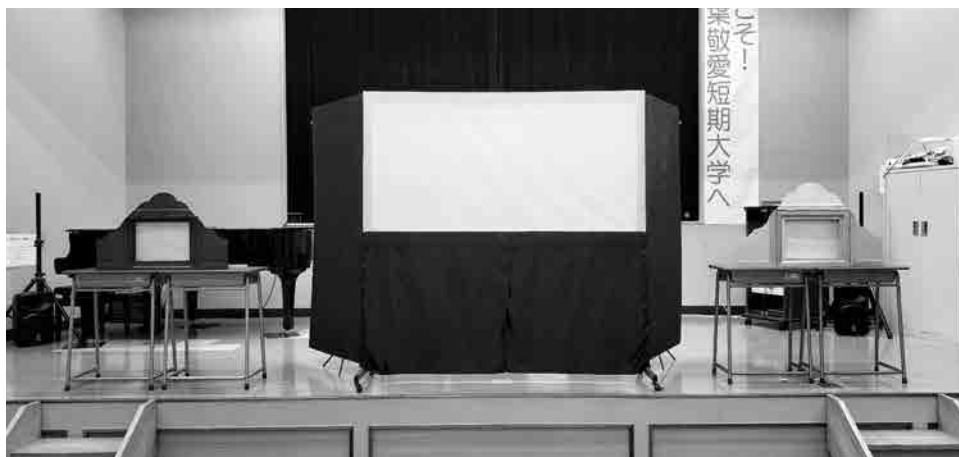
本学オリジナルの影絵シアター（90cm×180cm）をセンターに配置し、紙芝居シアター（ミニ影絵シアターA・B）をその左右に配置する。この設置条件によって影絵作品を空間移動させて演出することを考案した。観客は3つのスクリーンに映し出される影絵に視線を移動させながら楽しむことができる。

センターに配置した大スクリーンでは、人や手指などで演出するダイナミックな影絵を表現することもできる。光源については、大スクリーンは例年通りプロジェクターの光源を使用し、ミニ影絵シアターは、携帯電話の光源で検証してみた結果、可能であることが判明した。（1スクリーンに携帯電話2台使用）

## （3） 楽曲の選曲

今年度は、2クラス合同の授業（1クラス32名×2クラス）で実施することで、各クラス3作品とし、1授業中、合計6作品を製作する。そのため1授業（90分）内の1作品の所要時間を短縮することが求められることから、1作品2分以内の作品とした。また、新型コロナウイルス感染防止対策上、歌唱を伴わない作品構成とするため、歌入りのCD音源を1曲2分以内に編集して使用することにした。

楽曲の選曲については、3つのスクリーンの空間移動が効果的に使えると筆者がイメージした8曲、①はたらくくるま1、②動物園へいこう、③てをたたこ、④手のひらを太陽に、⑤うさぎとかめ、⑥おむすびすっとなん、⑦ドレミの歌、⑧南の島のハメハメハ大王）を、あらかじめ挙げ、それ以外の曲で製作したい学生たちには自由曲を選曲するよう促した。選曲の条件は、筆者が挙げた8曲同様、①3つのスクリーンを空間移動させながら効果的に使うことがイメージできる曲であること、②子どもの歌であること、③2分以内の作品にすることとした。



3つの影絵シアターの舞台上の配置

#### (4) 表現方法

3つのスクリーンを効果的に使いながら空間移動する方式である。基本的には、まず、センターの大スクリーンに曲名（タイトル）を映し出し、曲中では左右のミニ影絵シアターを行き来しながら、最後は3つのスクリーンにラインナップするというダイナミックな表現方法である。

#### (5) 演出（学生に提案した作品例：筆者作成）



オープニング：前奏部分で映す『ドレミの歌』のタイトル

#### (例)『ドレミの歌』

センターシアター 前奏：『ドレミの歌』のタイトル

A：ミニシアター 「ドはドーナツのド」（ドーナツのペープサート）

B：ミニシアター 「レはレモンのレ」（レモンのペープサート）

センターシアター 「ミはみんなのミ」（子どもの顔のペープサート）

A：ミニシアター 「ファはファイトのファ」（力こぶのペープサート）

センターシアター 「ソは青い空」（虹のペープサート）

B：ミニシアター 「ラはラッパのラ」（ラッパのペープサートルシ）

センターシアター 「シはしあわせよ さあ歌いましょう」（ハートのペープサート）

「ドレミファソラシド ドシラソファミレ ドミミ ミソソ レファファ ラシシ……」

（五線譜に♪を移動させる）……………（中略）……………

3つのシアター ラストシーンは、全てのペープサートを映し出す

#### (6) 壁に写して遊ぶ影絵

紙芝居シアターに映すペープサートは、保育園の延長保育の際などに、夕陽等を光源にして保育室の

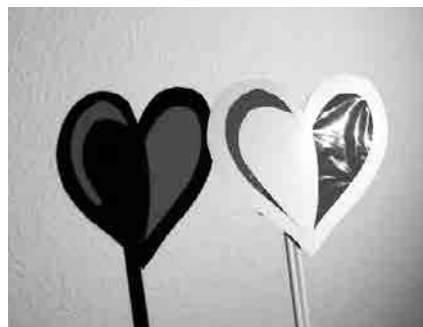
壁に映して遊ぶこともできる。



↑「ソは青い空」

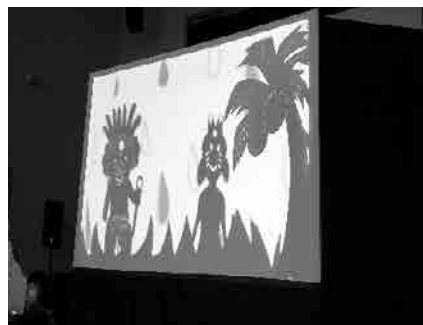
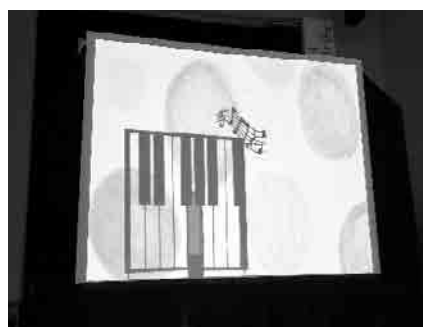


↑「ラはラッパのラ」



↑「シはしあわせよ」

## (7) 学生の作品



## (8) 学生の反応

学生の感想には「リハーサルでは上手にできたが、本番になると場所を移動する時に他の人とぶつかってしまい、登場人物を出すことが出来ず悔しかったし、申し訳なかった。しかし、練習するたびにどんどん上手になっているのがわかり楽しかった。保育士として働いても、子どもたちと一緒に影絵をしたいと思ったし、誕生日会の出し物でも先生方同士で子どもたちのために行いたいと思った。」「チーム毎に様々な工夫があり、見ていてすごく楽しかった。背景を加えたり、影絵人形の向きを出す位置を変えたりするだけで、見ている人は曲の世界が広がりより楽しめることを学んだ。同じチームで背景や人形について話し合い、一つの作品をより良いものにしていく経験は貴重なものだと感じ、良い思い出となった。今回の授業を通して演じる側と見る側のどちらも体験することができたので、この学びを現場で活かしていきたいと思った。」「光を当てた時の見え方や大きさを考えながらやるのが難しかった。曲のリズムに合わせて動かす時の見え方、ただ横にふわふわ動かすだけでなく実際に歩いているように見えるような動かし方にするだけで、見ている側は楽しめることがわかった。パネルの大小によっても見せ方が変わってくるので、少人数で小さなパネルでもやってみたい。」「初めて影絵シアターをやってみて、一つの作品を完成させることは大変であると思った。実際に動かして練習をする中で使う物の動かし方を改善したり、手を使った動かし方、引いたり近づけたりすることで大きく見せたり小さく見せ



たりできることを学んだ。保育の現場でも活かしていきたいと思う。」「影絵シアターの製作を通して、相手にどのように伝わるか、伝えたいことを形にする難しさや楽しさを感じた。最終的に影絵になることを理解して作品を仕上げたり、色をつけることで面白くなるという工夫を考えることで、日々仕上がりや舞台裏での動きがスムーズになり達成感があった。手影絵を取り入れることで人の温かみを出し、リアルさを伝えられたと思う。」「音楽に合わせてタイミング良くペープサートを出すには歌詞の先を考えて準備することがとても大切だと改めて思った。光に対してどの距離で出したらどのように映るかは体験してみてわかった。」「授業を通して影絵の面白さに気づいた。歌・曲に合わせて作品を作り、わかりやすさ、見やすさ、絵人形を出すタイミングなどを工夫した。」「影絵は一人でもできるが、たくさんの人数で作り上げる方が迫力があってより面白くなることを学んだ。」「影絵シアターはただやるのではなく、見る側の人に歌の内容を伝えることが必要であり、その練習の積み重ねが大切であると改めて感じた。」等、が成果発表後の振り返りシートの記述である。

#### 4 授業後の感想と考察

今年度の影絵の製作の入る前に、参考として昨年度の音楽影絵シアター作品を見せたことで、正面からの影絵はイメージできたと思うが、舞台裏での作業は実際に体験することでしか理解できないため、製作を始めたころは表現方法に戸惑い、また、最終的な完成図がなかなか見えず、話し合いや製作が進まない様子が見られた。

しかし、本番に近づくにつれてチームとして、また自分の役割を積極的に活動する姿が見られ、回を重ねる毎にそれぞれのチームが徐々に影絵の楽しさを感じている印象を得た。授業のコマ数に余裕があれば、学生たち自身でテーマを決め、音楽の選曲や編集作業も行うことが望まれる。今年度の音楽影絵シアターは、コロナ感染防止対策の諸条件を満たすことから筆者が発案した様式であり、メインの大きなスクリーンと、サイドに2つの紙芝居シアターを影絵シアターに代用して組み合わせたことで、影絵そのものの面白さが増したと同時に、使いこなすことの演出上の難度も上がった。

特に紙芝居シアターにおける投影の方法、細かい表現方法については今後検討する必要があるが、保育現場で活用できる影絵としての可能性を広げることができたと考えられる。影絵遊びとしては、シアターの枠を越えて保育室にあるものや子どもたちの製作物を壁に投影してみたり、園庭で影踏みをしたり、樹々や葉っぱのような自然物を使った影絵で遊んでみることなど、年間の行事や季節によって様々な取り組みができることに発想を飛ばし、影絵の持つ魅力を幅広く展開してほしい。

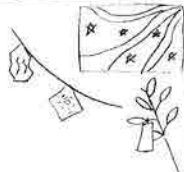
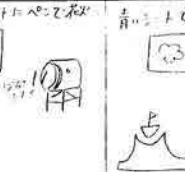
#### 5 まとめと今後の課題

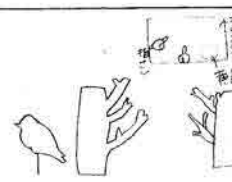
音楽表現・身体表現・造形表現、それぞれを融合させて創作する音楽影絵シアターは、スクリーン上の芸術を超えた空間を演出する芸術作品となることが考えられる。子どもたちが遊ぶ保育教材、学生達のグループ研究として作り上げる創作作品、プロフェッショナルによって表現される芸術的な影絵の世界、レベルやクオリティーは様々であるが、創造することへの情熱や、同じ時間を共有することの楽しさや達成感は、世代を越えて楽しめるジャンルであると考えられる。


3年間の「音楽影絵シアター」3様式は、その年度の学生数や社会現象による諸条件を満たすことで生まれた結果である。このような3様式を考案することができたことは、筆者にとってはとても実に面白い作業であったといえる。

3作品とも授業のコマ数に限りがあるため、構成・脚本の作成と音楽（選曲・編曲）については筆者が提示したが、授業のコマ数に余裕があれば、学生同士でテーマを決め、脚本を練り、音楽を作るという時間を取りたいと思う。

資料①（学生が作成した音楽影絵シアター『美しい日本の四季』脚本）

<p>富田新太郎 (新日本新聞) (大正) 夏</p>	<p>富田新太郎</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>	<p>あなたはどうなお願ひも しますか?</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>
<p>新太郎</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>		
<p>夏</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>	<p>おやあ、大手な成、海や 見えまし。船にのてどこに行きますか。 お祭りですよ。 フーイイ!!! 元氣いばいとても にやめです。</p>

音楽絵シヤター「美しい日本の四季」(秋・冬) 2年(一)画 頁(一)	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。		音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。
	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。	音楽絵シヤター 秋になりまし。あつたのまわりにも小さい秋あります。

音楽絵シヤター「美しい日本の四季」(冬・春) 2年(一)画 頁(一)	音楽絵シヤター 雪がふりました。		音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。
	音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。	音楽絵シヤター 雪がふりました。

# 参考文献

- ・谷田貝公昭監修、渡部厚美・岡崎裕美編著 コンパクト版 保育内容シリーズ「音楽表現」 株式会社一藝社
- ・谷田貝公昭監修、新版「保育用語辞典」 株式会社一藝社
- ・小川清美編、演習「児童文化」保育内容としての実践と展開 萌文書林
- ・やさしいピアノの絵本、「ピーターと狼」 千秋次郎編曲 全音楽譜出版社
- ・「劇あそび音楽セット」 キングレコード
- ・劇あそびBGM集「世界の昔ばなしセット」 コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社